

サバンナで 野生動物を守る

さわ だ とし こ
沢田俊子／文



講談社 青い鳥文庫

もくじ

第1

1

章

サファリガイド

まえがき

4

1

バーチャルサファリ

8

2

クルーガーエリア

26

3

サファリガイドになったきっかけ

31

4

政府公認の資格を取るために

38

5

サファリガイドの仕事

49

6

サファリガイド訓練体験ツアー

56



7 サバンナでのくらし

80

第2回

2 章

野生動物を守る



1 リカオンの保護

94



2 ライオンの避妊手術

101



3 サイの密猟をふせぐために

112



4 クラウドファンディング

118

あとがき

128

青い鳥文庫版の刊行に寄せて
その後の太田ゆかさん

132



まえがき

南^{みなみ}アフリカ共和国^{きょうわこく}は、アフリカ大陸^{たいりく}のいちばん南^{みなみ}にある国^{くに}です。この国^{くに}には、キリンやゾウ、ライオン、カバをはじめ、たくさんの野生動物^{やせいどうぶつ}が生息^{せいそく}している地域^{ちいき}があります。

なかでもクルーガー国立公園^{こくりつこうえん}と、いくつかの私営保護区^{しえいほごく}をふくむクルーガーエリアは、南アフリカを代表^{だいひょう}する動物保護区^{どうぶつほごく}です。

太田^{おおた}ゆかさんはそのエリアで、日本^{にほん}人女性^{じんじょせい}でただ一人^{ひとり}、サ^{*}フリガイドをしています。

どんなことをしているの？

どうしたら、サフリガイドになれるの？

野生動物^{やせいどうぶつ}たちの様子^{ようす}は？

教えてゆかさん、南アフリカ^{みなみ}のサバンナ^{*}で起こ^{おこ}っている、い

ろいろなことを。

*サファリガイド 観光客を、主に車で自然の中へ案内し、野生動物のすがたを見せたり、生態について説明したりする人。またはその活動をする仕事。

*サバンナ バイオーム（生物群系）の一つ。雨季（雨の降る時期）と乾季（ほとんど雨の降らない時期）があり、年間降水量が少なく、気温が高い。草原だが、乾燥に強い樹木も見られる。

第^{だい}

1

章^{しょう}

サ フ ア リ ガ イ ド





1 バーチャルサファリ

二〇二〇年^{ねん}から二〇二一年^{ねん}夏^{なつ}までの間^{あいだ}、新型^{しんがた}コロナウイルス
感染症^{かんせんしょう}の感染^{かんせん}拡大^{かくだい}をおさえるために、世界中^{せかいじゅう}でいろいろな活動^{かつどう}
が中止^{ちゅうし}になってしまいました。

二〇二〇年^{ねん}三月^{がつ}以降^{いこう}、南アフリカ^{みなみ}はロックダウン^{*}に入り^{はい}、一
時^じ、国境^{こくきょう}が封鎖^{ふうさ}され、その後^ご解除^{かいじょ}されても、また封鎖^{ふうさ}されるの
くりかえしで、サファリツアー^{さんか}に参加^{さんか}する観光客^{かんこうきやく}が来^こなくなっ

たのです。

その結果、ゆかさんが所属していたボランティア団体が一時解散することになり、サファリガイドの活動ができなくなりました。かといって、南アフリカから日本に帰ることもできない状態です。

いろいろ考えた末、ゆかさんが企画したのが、南アフリカの動画制作会社と協力して行う、日本人向けのバーチャルサファリツアーでした。

* ロックダウン 一定期間、対象となる地域で、人々の移動やさまざまな活動が禁止されること。

この方法ほうほうなら南アフリカみなみに來こなくても、日本にほんの自宅じたくにいなが
ら、インターネットを使つかってリアルタイムでツアーに参加さんかでき
ます。

ツアー当日とうじつ、ゆかさんは、カメラクルーと二人ふたりでサファリカー
に乗りこむと、日本にほんにいる参加者さんかしゃたちに声こえかけをしました。

「みなさん、ようこそ。今いまから、わたしたちといっしょに、ク
ルーガーエリアのサバンナを二時間じかんかけて回りまわましょう。ツ
アー時間内じかんないに、どんな野生動物やせいどうぶつに出会であえるか楽したのみにしてい

ください。」

そう言ったものの、自然が相手なので、どうなるかわかりません。

サバナナの中に住まいがあるゆかさんは、今朝も起きたときから、周囲の気配に耳をすましました。

ゾウが木をへし折っている音は聞こえないか、動物たちの威嚇の声は聞こえないか、いつもとちがう気配はしないか、この天気なら、水場に行ったほうが動物に会えそうだななど

……。経験けいけんと五感ごかんをたよりに、今日きょうも野生動物やせいどうぶつをさがすつもりです。

参加者さんかしやは気がついたこと、知りたいことがあれば、そのつど、チャット*で質問しつもんできます。

「さあ出発しゅつぱつです。今日きょうのカメラクルーはマツトです。」
ゆかさんは運転うんてんしながら、マツトさんをしようかいし終おわると、リアルタイムで配信はいしんしているサバナの様子ようすを説明せつめいしはじめました。

とちゅうで、フンを見みつけました。キリンのもののよう

す。カラカラにかわいています。

キリンは何日なんにちも前まえにここを通とおつたのでしよう。

「みなさん、高たかい木きのえだが折おれています。ゾウが通とおつていたのです。キリンならじょうずに葉はっぱだけを食たべていきますから。」

説明せつめいしながら、ゆかさんの目めは、野生動物やせいどうぶつをさがしています。

*チャット スマートフォンやパソコンで、ネットワーク上じょうに文章ぶんしょうを打ちこむと、その文章ぶんしょうが画面がめんに表示ひょうじされ、リアルタイムでやりとりができるシステムのこと。

「マツト、あそこ。木々が動いた。何かいる。行こう。」

ゆかさんが早口の英語で伝え、アクセルをふみこむと同時に、マツトさんは、ゆかさんが指さしたあたりにカメラを向けます。

あ、いました。うつそうとしげった木々の向こうで動いているのは、ゾウです。

「みなさん見えますか？ ゾウの群れです。水浴びをしにいくのでしよう。先回りしましょう。」

ゆかさんは、無線でだれかと話しながら、ハンドルをだいた



サファリカーを運転するゆかさん。
うんてん

んに切りきりました。

「みなさん、じつは、マットが撮とってくれているこの映像えいぞうがみなさんにリアルタイムでとどいているのは、オフィスにいるバブが配信はいしんしてくれているからです。これから先さき、電波でんぱのかげんで映像えいぞうやわたしの声こえがとぎれることがあるかもしれませんが、そのときは、バブが録画ろくがしてある野生動物やせいどうぶつの映像えいぞうなどを流ながして、間まをつないでくれます。」

——ゾウみずあって水浴びすが好きなのですか？

だれかがチャットに書きこみました。

「○○さん、質問しつもんありがとう。それはね、」

とすぐに、ゆかさんの声こえが返かえってきます。

「ゾウが水浴みずあびをしながら泥どろを体からだにかけるのは、暑あついからでもあるのですが、寄生虫きせいちゅうを取りとのぞいたり、日焼ひやけを防止ぼうししたりするためのメンテナンスなんです。」

あ、足あしあとです。

ゆかさんは、サファリカーをおりて、調しらべました。

「これは、ライオン。おとなのオスライオンのようですね。」

足あしあとの大きおおきさや、形かたち、歩幅ほはばなどから、推測すいそくします。いつこ

ろ通^{とお}ったのか、単^{たん}独^{どく}だったのか、グ^グル^ルー^ープ^プだったのか、ど^どち^ちら^らに^む向^むか^かつ^つて^てい^いつ^つた^たの^のか^かな^など^どを^をス^スマ^マー^ート^トフ^フォ^ォン^ンに^に記^き録^{ろく}し^し、足^{あし}あ^あと^とが^が新^{あた}しい^ら場^ば合^{あい}は^は、た^たし^しか^かめ^める^るた^ため^めに^に、あ^あと^とを^を追^おい^いま^ます^す。

さ^さて^て、先^{さき}回^{まわ}り^りし^して^て水^み場^{ずば}が^が見^みえ^える^ると^とこ^ころ^ろで^で待^まつ^つて^てい^いる^ると^と、ゾ^ゾウ^ウの^の群^むれ^れが^がや^やつ^つて^てき^きま^まし^した^た。

——わ^わあ^あ、す^すご^ごい^い数^{かず}で^です^すね^ね。

と^とチ^チャ^ャツ^ツト^トに^に書^かき^きこ^こま^まれ^れま^ます^す。

オ^オス^スの^のゾ^ゾウ^ウ十^{じゅう}数^{すう}頭^{とう}が^が池^{いけ}の^の中^{なか}に^に入^{はい}り^り、水^{みず}を^を体^{からだ}に^にか^かけ^けて^てい^いま^ます^す。



みずあ
水浴びするゾウ。

—— 気持ちよさそう。

—— すごい迫力、はんばない。

「水^{みず}といつても、見てのとおり^みの泥水^{どろみず}です。それでも楽し^{たの}そう
です。気持ちよさそうに水浴^{みずあ}びしていますね。」

—— 子どものゾウはいないんですね？

「子どもたちは、メスの群^むれといっしょにいます。ゾウのオス
とメスは、別行動^{べつこうどう}なんです。今^{いま}そこにいるのは、若いオス^{わか}の群^む
れです。メスの群^むれを出^でたばかりの若いオス^{わか}は、若いオス^{わか}同士^{どうし}
で小^{ちい}さなグループを作^{つく}って行動^{こうどう}することが多い^{おお}んですよ。」

——へえーっ。初めて知りました。

「あ、みなさん、ラッキーです。水浴びをしているゾウの向こうを見てください。メスライオンがいます。このメスライオンは警戒心が強いので、なかなか遭遇できないんですよ。じつは、……。」

と、ゆかさんの解説が続きます。

ゆかさんは、参加者がわくわくしてくるようなガイドを心がけています。それは、参加者がツアーを通じて、サバンナに住む動物たちに興味を持ち、野生動物の現状を知ってくれること

を願^{ねが}っているからです。

サファリカーを止^とめると、ゆかさんは何^{なに}かをひろいました。

「これはなんでしょう？」

—もしかして、フン？

「よくわかりましたね。それではなんのフンでしょう？」

—大^{おお}きいですね。

—草食動物^{そうしょくどうぶつ}だよね。

—サイかな？

というコメントが、つぎつぎにとどきます。

「正解^{せいかい}は、ゾウです。」

——へえー、ゾウか。すごーい。

——くさくないんですか？

「ゾウのフンは、かわいてしまえばくさくありません。」

——いつか現地^{げんち}に行きたいです。

——バーチャルでも、こんなにわくわくするんだもの。

——わたしも。サバンナに行^いつて、風^{かぜ}を感じ^{かん}たいです。

「みなさん、そうなんです。映像^{えいぞう}では、五感^{ごかん}のすべてをおとど

けすることはできません。さまざまな鳥のさえずりや羽ばたき、真夜中にひびく遠ぼえを聞いてほしいし、足元に咲きみだれているめずらしい草花を直接見てほしいです。サバンナのおいや砂ぼこり、風がどのように吹いているのかなど、いつか、南アフリカに来て、ぜひ体感してください。」

現地に来てもらうことで、より深く野生動物の現状について理解してもらえらるだろうと、ゆかさんは思っています。



ゾウのフンの大きさに、参加者はびっくり。



2 クルーガーエリア

ゆかさんが活動かつどうしている南アフリカのクルーガーエリアは、
四国しこくがすっぽり入るはいほどの広さひろがあります。

そこには古代こだいからの木々や、曲まがりくねった川かわ、池いけ、沼ぬまがあ
ちこちにあつて、このエリアに、**絶滅危惧種***ぜつめつ きぐしゆをふくめた野生動
物ぶつ（ゾウ、キリン、ヒョウ、ライオン、バッファローなど）、

***絶滅危惧種**ぜつめつ きぐしゆ 絶えてしまうおそれのある生物せいぶつの種しゆのこと。

みなみ

きょう わ こく

南アフリカ共和国の

ば しょ
場所



みなみ
南アフリカ
きょうわ こく
共和国



百四十種類しゅるい以上いじょうが生息せいそく、鳥類ちようるいにいたっては、渡り鳥わたどりをふくめて五百種類しゅるい以上いじょうが確認かくにんされています。

さらに、多くの爬虫類はちゅうるい、両生類りやうせいるい、魚類ぎよるいや昆虫こんちゅう、そして千五百種類しゅるいもの植物しよくぶつ。まさに大自然だいしぜんの宝庫ほうこです。

クルーガー国立公園こくりつこうえんと、となりあっているいくつかの私営保しえいほ護区ごくとの境界きょうかいは、柵さくなどで区切くぎられていないので、動物どうぶつたちは自由に移動いどうしています。

国立公園こくりつこうえんの中なかは、道路どうろが整備せいびされていて、日中にっちゅうは、自家用車じかようしゃやレンタカーで通とおることが出来ます。とはいえ、ドライブ中ちゅう、

野生動物やせいどうぶつがいつ現あらわれるかわからないうえ、めつたにないとはい
え、密獵者*みつりようしやと遭遇そうぐうする危険きけんもあります。

そのため、観光客かんこうきゃくは、指定場所していばしよ以外いがいでは、車くるまの外そとに出ること
ができない決まりになっています。

また、日ひがくれる前まえには、レストキャンプに入はいらなければな
りません。

国立公園内こくりつこうえんないの主な場所おも ばしよ十二か所しよに、メインレストキャンプが
点在てんざいしていて、宿泊施設しゆくはくしせつやレストラン、ショップはもちろん、

*密獵 決まりを破やぶつて、ひそかに陸上りくじやうの動物どうぶつをとること。

ガソリンスタンド、レンタカーオフィスなどが併設へいせつされています。

国立公園こくりつこうえん内や私営保護区しえいほごくのロッジの周辺しゅうへんにも、野生動物やせいどうぶつがやってくるがあります。



3 サファリガイドになったきっかけ

ゆかさんは子ども時代、家の周りにたんぼがある、自然豊かなところで育ち、ザリガニやカエルなどの生き物が大好きでした。

テレビのドキュメンタリー番組で、山火事で燃えているユーカリの木からコアラを救出する人たちの活動を見たときは、感動して、コアラのぬいぐるみを木にくくりつけ、助けるまねを

して遊びました。

これが野生動物の保護に興味を持つきっかけになったそうです。

二〇一四年九月、大学二年生のときに、子どものころからあこがれていたアフリカをおとずれました。

それまでも、マレーシアやモンゴル、ボルネオ島（カリマ
ンタン島）などを旅行したときに、旅のついでに野生動物を見
たことはあったのですが、このときのように、三週間も同じと
ころに滞在して、野生動物を間近に見つつ、環境保護ボランティ

アに体験参加するのは、初めてのことでした。

南アフリカの広大な自然の中で悠々とくらししている野生動物にあつとうされる一方で、サファリガイドが、観光客の案内をする以外に、アフリカの大自然が直面する密猟や野生動物の減少などの問題に取り組んでいることを知り、心を動かされました。

野生動物の保護にあがれていた子どもたちのことを思い出し、自分にできることがここにあるかもしれないと、寝る前に考えたりしました。

二〇一五年十月のことです。期間は一年間。最初の六か月間は、基礎訓練。試験に合格したら、六か月間の実習に進むというカリキュラムでした。

授業は英語です。英語なら問題ありません。英会話には自信がありました。ところが、実際には、講師や生徒たちの会話が聞き取れませんでした。

そのわけは間もなくわかったのですが、講師も生徒もいろいろな国からやってきた人たちなので、それぞれなまりの強い英語で話していたからです。

そのうえ、話すスピードがとても速いのです。何を言っているのかよくわからないという現実^{げんじつ}に、ゆかさんはショックを受^うけました。

スマートフォンで授業^{じゅぎょう}を録音^{ろくおん}しておいて、テントにもどつてから聞き直すのですが、何度聞^きいても、聞^きき取^とれないところがあります。食事^{しょくじ}のときに、みんなが笑^{わら}つていても、なぜ笑^{わら}つていないのかかわりません。すっかり自信^{じしん}をなくしてしまいました。孤独^{こどく}を感じ^{かん}、ホームシックになりました。

（日本^{にほん}に帰^{かえ}りたい。）

でも、大学には休学届を出しています。くじけて帰るわけにはいきません。

そのうち、録音していた授業をいつしよに聞いて、わからないところを教えてくれる友だちができました。耳がなれてみんなの話が聞き取れるようになるまで、二か月ぐらいかかりました。

今ふりかえると、つらかった日々も、かけがえのない思い出になっています。